

「習志野俘虜収容所」から 見えるわがまち



東習志野4丁目児童遊園内にドイツ捕虜オーケストラの碑があるのをご存知ですか？

碑にはオーケストラと指揮者の写真が載っています。このオーケストラのメンバーは習志野収容所に収容されていたドイツ兵士たちです。今から100年前の習志野収容所を身近に知っていただくことは、“わがまち習志野”を再発見するきっかけになります。

写真：習志野俘虜収容所とハンス・ミリエス氏(ヴァイオリニスト)

2018年2月3日(土) 2:00p.m.開演 (開場 1:30p.m.)

東習志野コミュニティセンター TEL: 047-475-9901

実籾駅より徒歩 8 分 (裏面の地図をご参照ください)

*会場は和室です。持ち運びができる椅子をご準備できる方は恐れ入りますが、ご持参ください。
センターには座椅子がありますが、数に限りがあります。

資料代：おとな 500円 こども 300円(小学校6年生まで)

Talk & Performance / お話 & 演奏

フランク・博・ケーザー

テーマ：「習志野にいた第二のシーボルト、フリッツ・ルンプ」

ベルリン自由大学大学院博士課程修了。専門は歴史で、明治時代から1945年にかけての日独関係史を研究。習志野俘虜収容所にいたフリッツ・ルンプは日独関係で重要な役割を果たしたが、第二のシーボルト？現在は東京大学法学部所属の日本学術振興会研究員として日本に滞在している

星 昌幸

習志野市教育委員会編『ドイツ兵士の見たニッポン』丸善ブックス 執筆者。習志野市学校給食センター所長

斎藤 和子

ヴァイオリン演奏：「閉じておくれ 僕の眼を」100年前の1817年、収容所でハンス・ミリエスが作曲
東習志野5丁目在住

Navigator / ご案内

ゆきこ
戸田 志香
本大久保3丁目在住

習志野俘虜収容所



第一次世界大戦に敗れ、捕虜となって青島から連れて来られたドイツ兵士たちは、日本各地の収容所に送られました。そのひとつが習志野にあり、多い時には1,000名近くが収容されていました。

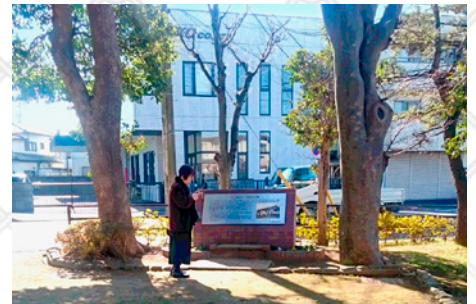
大正4年(1915)9月7日。ドイツ兵士たちは当時収容されていた浅草本願寺から両国まで30分行進し、特別列車で45分。津田沼に到着し、東金街道を1時間半行軍後、たどり着いたのが現在の東習志野4、5丁目の一画、95,000平方メートルの広さの習志野俘虜収容所でした。

ドイツ捕虜オーケストラの碑(東習志野4丁目児童遊園内)

ここではさまざまな音楽活動がおこなわれており、日本で初めてのソーセージ作りは、ここ習志野俘虜収容所でした。そして地元住民とのたくさんのエピソードも残されています。

習志野俘虜収容所を知ることは、蓄積された習志野の歴史を新たな目で見ることになります。

Photo by Ms. Hitomi SHIGETA



記念碑は俘虜収容所跡地に建てられている

アクセス



東習志野コミュニティセンター外観

東習志野コミュニティセンター

習志野市東習志野 3-1-20 TEL: 047-475-9901

●京成電鉄：実籾駅北口より、徒歩8分

※車でご来場の方へ

東習志野コミュニティセンター敷地内の駐車場は8台です。その他に臨時駐車場(30台)があります。臨時駐車場は、下記ホームページでご確認の上、ご来場ください。

<http://www.to-nara.jp/#content01>

